



代表取締役

ど い かつ じ

土肥 克次

## 株

株式会社物研の代表取締役の土肥克次は、強い芯を持つ頼もしいリーダーだ。どんな時も信念を曲げず、

幾多の困難を乗り越えてきた軌跡と、今後の展望について話を聞いた。

### 何もやっても中途半端な学生時代

学生時代は決して優秀な学生では無かった。小学校から続けていた少年野球も中学に入り先輩と喧嘩になり、辞めることになった。小学校の頃に頑張ってきた野球にも大した思い入れもなく簡単に諦めることが出来た。その頃から、学校では授業にもろくに出不ず、喧嘩に明け暮れて不良友達と付き合い、学校や警察、親にも多くの面倒を掛ける日々が続いていた。何とか高校に入ったが、それも中途半端で周りに流され、常に楽な方を選択して生きる学生時代を過ごした。

### 仕事に明け暮れた青年時代

働き者の両親に育てられた土肥は、学生時代にさまざまなアルバイトを経験した。中でも高校1年生の夏休みに始めた土木建築のアルバイトは、土肥の学生生活を大きく変えてしまう。仕事を覚えてこなしていくのが楽しくなればなるほど、学校生活への興味がうすれていったのだ。学校には徐々に行かなくなり、卒業を待たずに退学を決めた。

仕事現場の先輩たちには可愛がられ、社長から「社員にならないか」と誘いを受けるほど、その働きぶりは素晴らしいものだった。しかし、仕事にも慣れきってしまった、刺激がなくなった頃、次第に遊びたい欲求が顔を出しはじめた。仕事に行かず、やんちゃをし続ける息子に手を焼いた父は、自身の経営する会社で息子の面倒を見ることにした。その会社こそが物研である。

## 意識を変えた 恩人の言葉

入社直後、倉庫が使えなくなるトラブルが発生し、急きよ父の知り合いの運送会社で働くことになった。強面社員たちの指導は時に理不尽で厳しいものだったが、この厳しさが当時の土肥には必要だった。

真面目に働き2年が経った頃、再び物研に戻るようになったが、どうにも仕事が面白くない。孫請けの仕事でお客様と直接関わる機会もなく、何も報われない気がし



た。仕事が嫌で仕方がなく、毎日文句を言いながら働いていると、あるお客様から声をかけられた。

「お前、いつもぶつぶつ文句を言っているな。そんなこと言う前に、今、与えられた環境で楽しむことを考える。周りの誰かがしてくれるのではない。お前や。自分でどんなふうにも楽しくできるし、やりがいも作れる」。

いつも土肥を気にかけてくれていたその人に言われた言葉が、深く胸に突き刺さった。これまで受け身だった自分を省みて、心を入れ替える決意をする。

「よし、それなら自分で仕事を取ってこようじゃないか」。

さっそく営業活動を始め、飛び込みで何件もの業者を回った。お客様と顔を合わせて話をすると、これまでにない楽しさとやりがいを感じる事ができた。次第に新規のお客様が増え、大きな自信になった。

助言してくれた恩人のお客様にもう一つ感謝しているのは、本をよく読むようアドバイスをくれたことだ。本には多くのヒントが散

りばめられている。読書好きになって人生が変わったと感じているほどだ。特に自伝が好きで、中でも胸に響いたのは、ホンダ創業者である本田宗一郎の本だ。破天荒な本田の様子に「俺でもいけるんちゃう」と勇気をもらった一冊である。

## 悔しさをバネに前進

営業活動が軌道に乗り、着々とお客様が増えていった中で、今でもよく覚えていることがある。新たに品質管理部門を立ち上げ、ぬいぐるみを扱う企業の検品作業を請け負いはじめた頃の出来事だ。

新規開拓中だった土肥は、同じくぬいぐるみを扱うライバル会社にも営業をかけ、積極的に交渉を行っていた。ある日、それが既存のお客様に知られ、「あそこは仕事をしないでほしい」と言われてしまったのだ。新規の商談がよい方向に進んでいただけに、悩みに悩んだが、白紙に戻す決意をし、ライバル会社の担当者に事情を説

明した。せめてもの償いにと、物研の代わりになる企業も紹介したが、「ここまで進めておいてなんや」と吐き捨てるように言われてしまった。どちらのお客様に対しても何も言い返すことができず、悔しくて仕方なかった。

「うちはまだまだだということだ。お客様にすべて合わせるのではなく、向こうが欲しがるとはいい価値をつけていかななくてはいけない」。

苦い気持ちをぐっと飲み込み、前に進むうとしていた矢先の2001年(平成13年)8月23日。信じられない出来事が物研を襲う。会社が火事で全焼したのだ。

(後編に続く)

## 企業情報

■設立年：1983年9月

■年商：6億円

※2019年9月時点



# 物研を学ぶ vol.1

## ～経営理念に迫る～

このページでは毎月、物研についての勉強をしていきます！私たちは物流という大きな流れの中でどの部分を担い、どこに貢献しているのか。毎日なんとなく仕事をしているだけでは気づくことのできない

大切なことを、土肥社長のコメントとともに学んでいきましょう。

記念すべき第1回では、会社の根幹となる経営理念についてをおさらいします。

## 経営理念

### 物流の前に心流あり。

顧客満足を追求し、確かな知識ときめ細やかな心配りを備えた全従業員と共に、自信と魅力ある職場を創造し持続的発展を目指します。

我が社の経営理念である「物流の前に心流あり。」という想いは、全ての事業活動における判断基準であり、社会から要求されている使命であります。我々はお客様の大切な商品を扱います。ただ単に物として扱うのではなく、そこに込められた多くの人々の心を扱います。その心に触れることで働く人の心が律せられ、自らが行う仕事の意味と価値を理解します。

人の心に寄り添うことで、その心に応えようという想いが湧きあがってきます。「お客様のお役に立ちたい」と、それこそが、人と人との心のつながりを創り出し、人々を幸せにし、この社会が繁栄する源泉となるのです。

確かに陽の目の当たらない、裏方的な仕事ではありますが、同時に縁の下での力持ちであることを忘れてはいけない。地味でありながらも大事なことを託されているという自信と誇りをもっていただきたい。

我々は誰かの役に立っている、どこの誰かは解らないがそんなことはたいしたことではない、大切なのは誰かと誰かの喜びをつなげている。それは、人と人とのつながりを創っていると言える。そこには多くの笑顔がある。このことを信じていることです。自信と誇りを持つようではありませんか。今日も「そこに心流はあるのか」と、自らに問いかけよう、そして多くの笑顔をつなげていく仕事に誇りを持つ。さあ、素晴らしい仲間と共に。

代表取締役 土肥 克次

## 経営理念をもっと深く！ 社長に Q & A！

Q. この経営理念は、いつ出来たものなのでしょうか？

2010年に明文化しました。それまでは何のためにこの仕事をしているのか？自問自答の日々でした。経営理念を明文化したことで、自分自身の生き方、あり方に責任が生まれました。

Q. 裏方的な仕事ですが、経営理念を体現するために、具体的にはどんなことを意識したら良いのでしょうか？

従業員の皆様は日々行っている仕事に対して、正しいのか？正しくないのか？経営理念を判断基準に行動して頂きたいと思えます。「そこに心流はあるのか？」と判断に悩んだときは自分自身に問うてください。この会社で働く判断基準は全て、経営理念です。社長である私が正しいのではなく自信を持って経営理念で判断できる人財になって頂きたいと思えます。それが自律的に生きるといことです。具体的には、お客様のお客様の為にきめ細かな心配りをもって努力し続けるということです。

## 今月のbukken spirits

bukken spiritsとは働く仲間としての共通の価値観です。

物研で働く皆さんがこの言葉に共感していただくことを切に願っています。今月はこの3つをご紹介します。

### 創意工夫

【創意工夫を持って感動を創り出す】

どんなことにも問いを持つことが大切である。これでいいのか？もっとできないのか？他にないのか？その問いを深く深く持ち、考え抜くことによってしか顧客満足は創れない。大きい事ではない、小さな工夫で良いのである。その小さな工夫の積み重ねがお客様の感動を創り出すのである。

### 現場のショールーム化

【現場こそ最大の営業マン】

現場は会社のショールームである。百聞は一見しかず。お客様は実際に見たものを判断する。一番の商品は人である。生き活きと美しく創意工夫のある現場で働いている従業員を見て判断する。現場に誇りを持ち、自信を持って現場を見てもらう。現場こそ最大の営業マンである。

### 全員参加

【仲間を信じて機会を与える】

人には得手、不得手がある。仲間とはその得手を伸ばし、不得手を補い合う存在である。一人では出来ないことも仲間の力を借りれば出来る事がある、誰一人として欠けることなく全員参加で仕事に取り組むことが尊いものだと思えば、仲間を信じて、仲間を掛け合ってお互いを知ることでしか事を成すことはない。